



安心とつるおの「下町」川の手をめぐりて

防災 まちづくり 瓦版

発行ノ寺言問を防災のまちにする会

昭和62年10月1日

雨水を防災用水に！

路地専の新タイプを開発 非常時用の飲料水を確保 具体案のデザイン検討へ



一言会の研究機関「路地専研究会(徳永暢男代表)」が雨水を利用した新しいタイプの路地専システムを開発した。研究会では今後具体案をつめていくとともに、このシステムの考え方を広めていく予定だ。

このシステムは、路地専の地下に5トン程度の小型の貯水槽を作り、近くの建物の屋根に降った雨水を導入、貯水する。これを非常時には、初期消火やろ化した上で飲料水に使い、平常時には手動式のポンプでくみ上げ、路地や緑の散水、子供の遊び用の水に利用している。この水、子供の遊び用の水に利用している。この水、子供の遊び用の水に利用している。

三宅島では雨水を飲み水に

一言会は、雨水の利用を提唱している墨田区の都市環境問題研究クループ代表の村瀬誠さん(向島保健所職員)を招き、9月27日、雨水利用システムの学習会を開いた。

村瀬さんによると、三宅島では全世帯の70%が屋根からの雨水をためる水槽を備えており、雨水を飲用に、水道水を雑用に使っているという。また区内では、九つの施設で、水洗トイレや冷房の水に雨水利用がおこなわれており、これまでの水質検査では、処理らしい処理をしていないにもかかわらず、消毒さえすれば、飲めるほど良好な成績が得られているとのこと。

「当初は、水道の蛇口から防災用水をとろうとしていた。ところが、大地震になると水道は断水してしまう恐れがある。そこで路地専の水源には雨水を利用しようと考えた」と、研究会の代表の徳永さん。

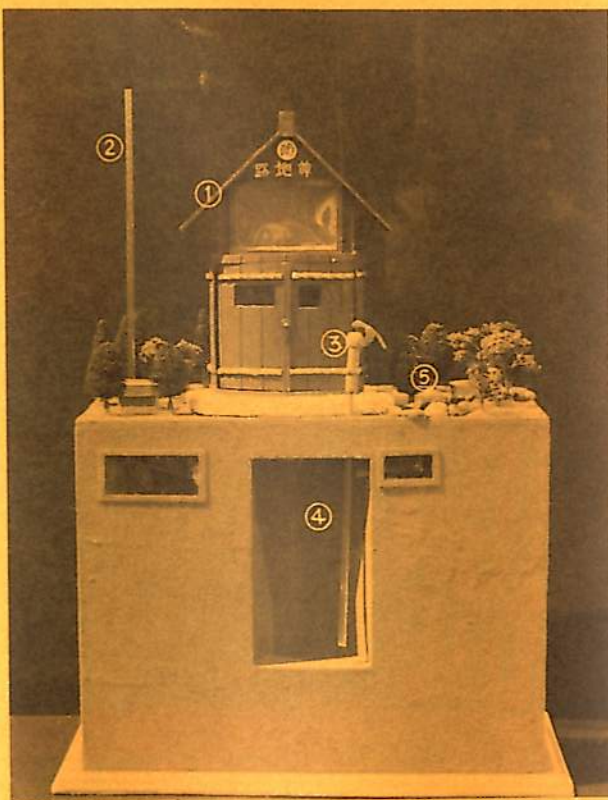
旧墨堤之道の整備について

沿道の人たち初会合

一言会は、8月26日に「旧墨堤之道の整備」に関して、沿道の人たちと懇談会を持った。(参加者、約30名)

「旧墨堤之道」は、子育て地蔵から白鬚神社に至る少し湾曲した道で、むかしの土手の名残り。かつては道沿いに柵並木が連なり、多くの花見客で賑わった。

「防災まちづくり計画」では、「墨堤通りの歩道や交差点の広場を拡げて歩行者空間として整備し、サクラを植樹して墨堤の柵を再生していく。特に、旧墨堤之道は、そのシンボル空間として整備し、

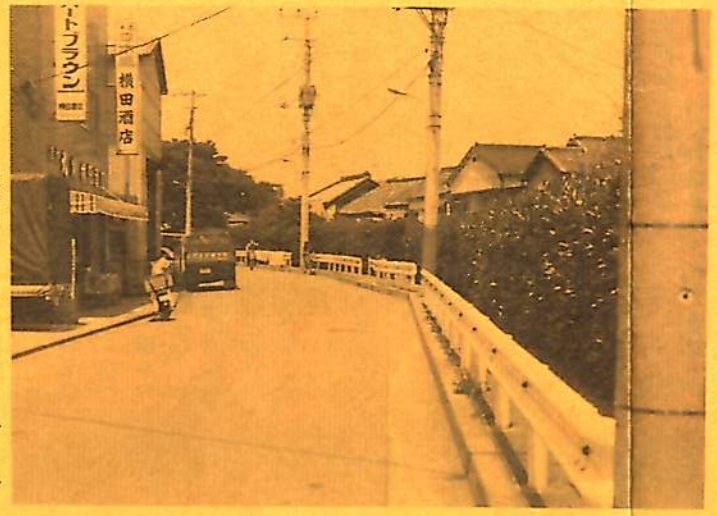


路地専雨水利用システムの模型

- ① 路地専 ② 屋根からの集水管(雨樋) ③ 手動式ポンプ ④ 貯水槽(3~5トン) ⑤ オーバーフローした水が流れるせらぎの池
- 模型製作 おおむら撮影 / 徳永暢男(右同様)

遊歩道にしていこうと謳っている。そこで、一言会は、整備について協議し計画をつくっていくことを沿道の人たちに提案した。

参加者から、「整備する必要がない」という意見と「歩きやすい道に整備してほしい」という意見の両方が出された。その中で「困っていることなどを出しあってみることも大切だ」という意見もあり、現状の問題や整備によって期待される効果、今後のすすめ方などをよく整理して、再度懇談会を開き、話しあうことになった。



子育て戯例からみた旧墨堤之道

THE NEWS FROM SUNTADA-KU

整備計画づくりに着手

墨田区は、「一寺言問地区防災まちづくり事業推進委員会」委員長・浅川敏克都市整備部長（まづくり、一寺言問地区の整備計画づくりに着手した）。

この委員会は、先に一言会が提出した「一寺言問の防災まちづくり計画」を検討するために、関係各課により、七月に発足した。以来、会合を重ね、十月中にその検討結果を、「一寺言問地区整備計画」としてまとめる予定だ。

この計画は、「どこを、どのような手段で、どのように整備するか」とい、た整備に關する基本的な方針を示したもので、細部については、我々住民と充分に協議し、別途定めていくことになった。

委員会の構成部局は次の通り、企画経営企画担当／防災課防災係／環境対策課緑化係／産業経済課商工振興係／都市計画課／建築不安定指等室細街路担当／同室不燃化担当／管理課用地調査係／道路課調整係／公園河川課調整係／庶務課庶務係／明察促進室

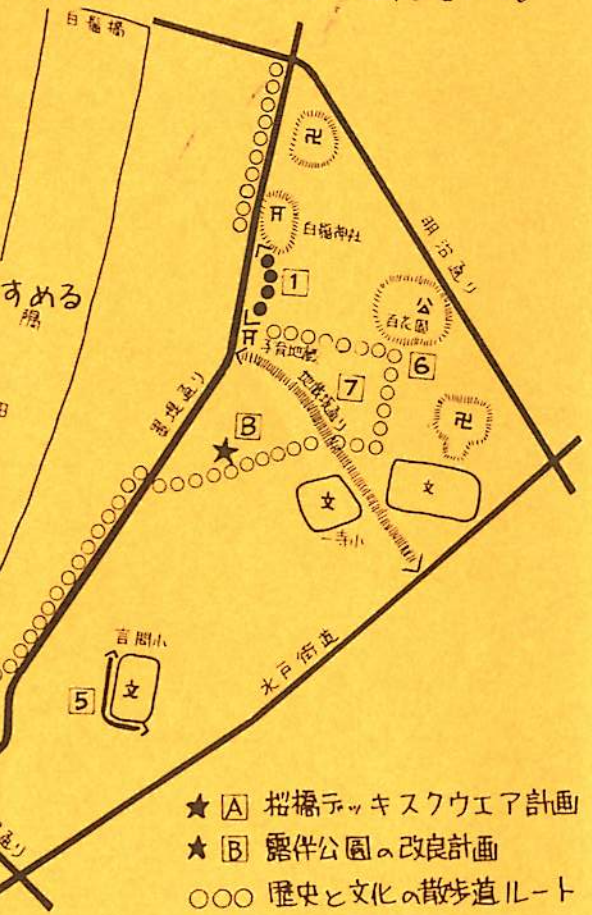
一言会の理事会は、「一寺言問の防災まちづくり計画」の具体化に向けて、今年度取り組みテーマについて協議し、左のように決めた。このうち、1、4、5、6、7、については担当を決めた。今後は、担当(理事)が中心になり、地区の人たちに働きかけ、検討をし、区に提案していく。

計画の具体化へ—11のテーマ

今年度の一言会の方針

- 1 旧墨堤之道の遊歩道整備基本計画を決定する
- 2 地域防災活動拠点会議の設置を検討する
- 3 防災まちづくりの学習・相談活動をすすめる
- 4 路地専を二基設置する
- 5 言問小学校周囲道路の路面整備を検討する
- 6 向島百花園周辺の環境整備方を検討する
- 7 地蔵坂通りを安全な道にするための協議をすすめる
- 8 生け垣化を推進する
- 9 防災まちづくり瓦版を発行する
- 10 防災まちづくりの功労者を表彰する
- 11 計画の具体化に関して総合的に検討する

- (担当)
- 1 堀通一丁目町会 車向島宮元町会 わいわい会
 - 4 わいわい会
 - 5 向島五丁目西町会 向島五丁目東町会
 - 6 東向島宮元町会 わいわい会
 - 7 東向島一丁目中町会 車向島宮元町会



露伴公園をお化粧直し

東向島一丁目の露伴公園は、文豪幸田露伴ゆかりの地で、歴史と文化の散歩道」の見どころのひとつになっている。区では、史跡としても魅力的な公園にするために、遊具なども含めて、近くお化粧直しをする予定だ。

招橋の橋詰に大歩道橋

区では、招橋のたもとあたり、高速道路下を走る道路の上にお化粧直し、「招橋テッキスクウエア」という大きな歩道橋(広場)をつくることを計画しており、現在そのプランを練っているようだ。完成すれば、隅田川を眺められる「明るく」広場になり、墨中通り(今度、招橋通りに改称とのこと)からも行きやすくなるという話だ。

細街路の整備に新制度

区は細街路の整備をすすめるために新しい制度をつくった。建築基準法によると、家の前の道幅が4mないと建てられない

いから、4mに満たない場合は、建物を後退して建てなければならぬ。

新制度によると、建て替えて後退した時、一軒ごとに後退した部分の整備(道路舗装やし型溝の移設など)をする。既に後退して整備が可能なものも申し出により整備する。また、道路用地の買い取りにも応じる。このこと、詳しくは、建築不燃指導室 tel.626-3151 内線671 一寺言問地区内にも細街路が多いが、これをすすめるには、将来はこの道にも消防車が行けるようになるかな。

「ただだけお徳な緑の話

一寺言問地区は、緑化のモデル地区にも指定されている。今、生け垣など「緑のへい」にする、大変にお得だ。1m当り、一万二千円の助成がある他、ブロック塀などをこねるときに1m当り六千円の助成がある。これは一寺言問地区だけの制度で、他のまちには適用されない。区の緑化係では、近く町会ごとに説明会を開いていく予定のこと、詳しくは次のところまでお話し下さい。 tel.626-3151 (内60) 小山



アイヌ語でなますのことを、モシリ・イクテウェ・チメツ、これは「背中で大地を支える魚」という意味だとか。アイヌの人も昔、「なますが動けば、大地が震動する」と信じていたようだ。そのなます、実は地震を起すところか震動に大変弱い。その証拠に、つ・た・なますを、酸素を十分に補給した生簀にいれても、大部分のなますは移動による震動でショック死してしまふ。そのせいか、なますを食べさせる店は、産地以外にあまり見られない、とか。

「地震に一番弱いのは、なます」という話

